



▲横浜ベイサイドに建つ高層マンションの美しい外観。と、そこにスパイダーマン?! いえいえ、単独降下型のビル外壁清掃作業の一コマでした… (P2に関連記事)

## CONTENTS

- 1 MESSAGE
- 2 GS-TOPICS / GS-MAN
- 3 GS職場めぐり / NEW FACES
- 4 GS-STORY  
「元氣と元氣がぶつかる!  
8人の先生と13人の園児たち」



### MESSAGE

## 困難に直面したときに… ～ある社長さんの話～

総合サービス事業部長 広川 一久

### ご安全に!

今回は、私が困難に直面した時にいつも思い出す言葉を紹介しましょう。

私が大阪に勤務していた10年ほど前、大阪の鉄鋼問屋の社長さんが、ある新聞に寄稿した文章です。この社長さんは全国の鉄鋼問屋組合の理事長を務めるほどの豪腕の「浪速商人」でした。しかし私も何回かお会いして話をする機会がありましたが、いつも柔かな表情で穏やかに話をされ、その豪腕ぶりを少しも感じさせないような方でした。どうしていつもこんなに穏やかで落ち着いていられるのだろうと不思議に思っていました。新聞の文章を読んで、その社長さんの落ち着きが理解できたような気がしました。以下にその言葉を紹介

します。

「世の中で人が努力してもどうしても解決しない問題は神仏はお与えになりません。従って思わぬことが起きて心も落ち着けなさい。『楽観』は物事の現象を安易に考えることではなく、苦しみととらえず、その姿、形、過程をどうしたら楽しいかなと思いながら、終わった時の喜び、楽しい状態を心にイメージして行うことです。そして何よりも一番大切なことは先程の、自ら解決できないことはない自信を持つことです。これは、公私、社会・家庭の区別なく全てに通ずる基本です。良い姿を頭に描くそのことが必ず実現すると信じてください」…どうです皆さん、困難に直面したらこの言葉を思い出して、心を落ち着かせてみてください。



## ベイサイド高層マンション 清掃業務を初受注

このたびビル管理部では三菱地所藤和コミュニティ(株)殿より、横浜駅東口ベイサイドに建つ高層マンション「ナビュール横浜タワーレジデンス」(地上41階建、建築面積4,233㎡、390戸)の共用部の清掃業務(クリーンアップ業務)一式を受注しました(高層マンションは初受注)。当マンションは各室にワイドなガラス窓が並び、横浜港の青い海と空によく映えています。このガラス(外面)清掃には、いわゆるゴンドラ方式ではなく、単独動作の清掃者が降下しながらクリーン作業を行う(写真)という作業方法が採用されています。



▲屋上(地上150メートル)で命綱を点検します。(写真左) 清掃用具を体にセットして降下開始。見ている方が目がくらみます。(写真右)

## 夏の奨金制度授賞式開催

今年の夏季「奨金制度」の受賞者が決まり、去る8月11日(火)午前、本社で授賞式が行われました(写真)。今回の受賞者は社員が11件60人、出向者が5件15人で、それぞれ佐藤社長から表彰されました。対象者の中で時節柄印象的だったのが食品衛生調査部からの受賞者(2人)。急増するノロウイルス検査への迅速な対応が評価されました。一方、県内10箇所のマンションで長年清掃業務に携わってきたビル管理部推薦の23人は、「仕事は地味でもマンション管理組合と管理会社双方の厚い信頼を得た」(林部長)結果が認められました。今回受賞のすべての皆さん、本当におめでとうございます！



## 秋風を射る！弓道六段 高橋 昌洋さん (京浜事業部施設管理部)

弓道歴35年の六段・高橋昌洋さん。去る9月26日(土)、明治神宮至誠館弓道場で開催された第50回記念・全日本鉄鋼弓道大会(全日本弓道連盟・鉄鋼新聞社後援)に「JFE 東日本京浜チーム」の一員として参加しチームは見事に優勝、三連覇の偉業を達成した。この大会は鉄鋼企業の職域団体対抗トーナメント(1チーム3人構成)で、高橋さんが終始チームを引っ張った。自ら所属する京浜弓道部は週に1回、川崎市宮弓道場で鍛錬を積んでいる。実際に職場で高橋さんにお会いすると、長身でやはり姿勢がいい。業務は扇島中央事務所まで空調管理を担当。月並みな質問ながら弓道の効果を聞くと、「つねに落ち着いて判断出来て仕事上にもプラスに作用。それにストレスの解消になります」と笑った。秋風を貫く「矢渡し」のスピード音が聴こえてくるような気がした。



▲職場では温和にお話をされる高橋さん。



▲大会では鋭い眼光で的を狙う。



GS職場めぐり

## 京浜地区のメールを一括管理 ～池上メールセンター～ (京浜事業部施設管理部メールチーム)

メールチーム（江口秀夫チーム）は、京浜地区メール網の中核拠点です。現在、渡田地区の京浜ビル、鶴見地区の2名駐在を含めて計13名（男9、女4）のメンバーで運営しています。朝刊の配達から一日が始まるので、勤務時間は7時から18時まで。職場内には一般の郵便局のように大きな仕分けボックスが設置されています。業務はこの仕分けボックスを中心とした《集配》が主ですが、《集》はグループ間メールと外部からの郵便物の受入れ、《配》の方は扇島、既存地全域の製鉄所管理棟と各工場および関連会社への配送です。さらに本社関係の集配や、鶴見地区 JFE ライフ殿（JFE トラベル）の特別便なども重要な業務。いま江口チームが最も神経を使うのは、①「集配の原動力」となる業務用自動車の徹底した安全運転管理（出発していく車両の隅々までチーム自ら点検します）、②誤発送ゼロを貫徹する「仕分けのダブルチェック」の2点です。

ところでこの職場の特徴は、集配業務の行く先や所要時間などが異なるためメンバー全員が揃う時間が少ないこと。食事時間もまちまちです。さらに雪の日や台風の中の作業などは難渋します。そこで効率的な業務の遂行のためには、センターがつねにメンバーの動きを把握しておく必要があります。「万一の場合に備えて《報・連・相》を密にしたチームワークが大切」（江口チーム）な職場なのです。《正確》《迅速》《安全》をモットーとするメールチーム。確かにある時間帯、仕分けボックスの前は「戦場」と化しますが、皆さんのきびきびとした動きを見ていると、京浜地区の「情報の動脈」を守る使命感に溢れています。

(文章 / 編集部)



▲「報・連・相が第一」と言う江口チーム。



▲お昼休みにメールチームの皆さんが集まってもらいました。



▲仕分け作業のピーク時。



# NEW FACES

2009年8月～10月入社の皆さん



### 工藤 直人さん

京浜事業部 施設管理部 (8月1日入社)

前職もガス会社だったので、JFE京浜地区のスケールの大きさに憧れて入社しました。今は扇島の蒸気設備を中心にユーティリティ部門の保全を担当しています。仕事で覚えることはたくさんあります。



### 上木原 智子さん

病院サービス事業部 (8月1日入社)

求人募集を見たとき、前職の幼稚園勤務の経験が活かせると思い入社を決めました。とにかく子どもと一緒にいるのが好き。子どもと一緒にいるととても楽しい。一日が終わると充実感に満たされます。



### 阿部 麻智子さん

病院サービス事業部 (8月17日入社)

子どもと関わることの出来る仕事がたくて入社を希望しました。この職場は体力勝負のようなところもありますが自信はあります。子どもたちにケガをさせないようにとの使命感をいつも持っています。



### 瀬崎 健さん

京浜事業部 施設管理部 (9月1日入社)

扇島・既存地全般の空調関係を担当しています。まだ先輩に教えられることの多い毎日ですが早く一人前になりたいと思います。職場はおもしろく、昼休みには職場の先輩と筋トレに励んでいます。19歳です。



### 桑原 智則さん

京浜事業部 食品衛生調査部 (9月1日入社)

学校時代に食品衛生を少し勉強したことで当社に魅力を感じました。今は飲食店の食材などの分析が主務。こういう身近な食生活の現場にタッチできることの意義を大切に考えています。独身です。



### 深澤 佑貴さん

京浜事業部 環境分析・調査部 (9月1日入社)

自分と関係のある街の大気の状態には大変関心がありました。環境分析の仕事は性に合っていると思います。「ご安全に！」の挨拶は一日中どこでも使えて便利です。休日は長野などへスノーボードに行きます。



### 紺屋 聡さん

京浜事業部 環境分析・調査部 (9月1日入社)

環境に興味があったので当社への入社を希望しました。現在の業務は排ガス中の成分測定ですが、現場で採取したサンプルをひとつひとつ調べていくのはとても面白いと感じています。職場も明るく、毎日が楽しい。



### 亀山 玲奈さん

京浜事業部 食品衛生調査部 (10月1日入社)

食品衛生学に興味がありました。今、検便実務をしていますが使命感を覚えます。この仕事は必ず「結果」が出るところにやりがいを感じます。職場の皆さんはたいへんやさしく、明るいわばかりです。



▲全員そろって「ハイ・チーズ」。みんなのカメラ視線が決まっています。

## 元気と元気がぶつかる！ 8人の先生と13人の園児たち ～こうかん会「ひよこ保育園」訪問記～

当社は医療法人社団こうかん会殿（日本鋼管病院）の医療周辺業務を幅広く受託しています。内容は病院内の設備・機械の管理・運転、警備、クラークやナースエイド（介護業務）、放射線・リハビリ他各科の受付および薬剤管理など、いわゆる医療サポート全般で、日々《サービス第一》を念頭に安全かつ確な実務をこころがけています。そんなサポート業務のひとつに、こうかん会殿に勤務されている看護師さん他の保護者の方々を対象として、その小さいお子さんたち（0歳から満6歳になった3月まで）を預かる「ひよこ保育園」の運営があります。おだやかな秋の一日、病院サービス事業部の川島和雄・業務チームリーダーに元気いっぱいの“保育現場”を案内してもらいました。

### キッズランドは午後3時！

病院敷地内なのにセキュリティシステム万全の「ひよこ保育園」。しかし一歩保育園のハウスに踏み込むとそこは別世界でした。まあ、にぎやかなこと、にぎやかなこと。元気な幼児たちの声で溢れ返っていました。広さ二十畳ほどの床一面に、転んでも痛くないようなクッションの利いたカーペットが引き詰められ、やわらかいウッディなボードが園児たちの“予期せぬ行動”に備えています。川島リーダーと訪問したのは、ちょうど午後3時！

そう、おやつ時間帯を迎えて園児たちの目がキラキラしはじめています。現在入園児童は13人（男児11、女児2）、先生（つまり当社社員、全員女性、平均年齢33歳）は8人。手厚い保育体制が敷かれています。しかし先生たちはたいへんです。片時も子どもから目が離せない先生、トイレに連れて行く先生、ミルクを温め、クッキーを小分けにしていく先生…統括するのは見るからに子ども好きのベテラン田中八重子リーダーです。「現在お預かりしているお子さんは、下は生後7か月の赤ちゃんから上は3歳半まで。みんな元気いっぱいですね」（田中リーダー）。さて当園の昼間保育時間は原則午後7時までですが、そこは院内保育園（認定は「事業所内保育所」という特殊な条件をクリアしなければなりません。たとえば、年始年末の休日以外は、要請があればいつでも開園できる体制をとっています。「病院勤務のご父兄には心おきなく医療に専念していただくため、完全保育によるバックアップを使命としている」（同リーダー）とのことでした。

### 24時間体制による病院への《貢献》

ところでこの保育園は今年夏に先生を2人増員しました。本格的な24時間の保育体制を目指すためです。今回案内役の川島リーダーは、「（病院側が）看護師さんの確保をしやすくするために子どもさんの夜間生活を完全フォローして病院に貢献したい」と言います。このため先生たちの勤務も昼間、準夜勤、深夜、2交替などさまざまなシフトを用意しました。当然、管理する側の《体力》も必要になります。その点、先生たちは皆さん若くてキビキビと動きます。なにより幼児教育にとっても熱心な姿がうかがえます。保育はハウス内ばかりとは限りません。晴れた日には屋外へ散歩に出ます。また年間プログラムによれば、ひな祭り、子どもの日、たなばた、秋のピクニック、クリスマス会と、とても楽しそうです。これら一連の行事を通した教育方針をあらためて田中リーダーに聞きました。「一般の保育所と差異をつけないように園児が、①保育士とのふれあいを通して家庭的な雰囲気の中で保育所生活に慣れ、安心して過ごせる ②基本的な生活習慣を身につけて行き、自分でしようとする気持ちを大切に ③いろいろな活動を通して豊かな心情を育てていく…などを園の目標

にしています」。その言葉を象徴するように園内の壁に「卒園式」の写真がかかっていました。この保育園を巣立っていく園児たちと、そのご両親のにこやかな顔、顔…その下に手作りのキャプションが貼られていました。「いつのことだか、思い出してごらん。あんなこと、こんなこと、あったでしょう…♪」。そこで今日も思い出の1コマにと、皆さんの写真を撮らせてもらうことにしました。すると、どうでしょう。今まで个性的に遊びに没頭していた子どもたちがそれぞれの行動をやめて、さっとカメラの前に整列してくれました。「みんなお行儀がいいでしょ？」田中リーダーが笑いながら私たちに言いました。こういう事業もJFEジーエスの一環なのだと思うと、この8人の先生たちを応援する気持ちが湧いてきました。

（文章／編集部）



▲子ども大好きな田中リーダー。



▲おやつ後は、やっぱりお遊びに夢中…。

### 編集後記

「ジーエス職場の広さと深さをじっくり展開してほしい」と社長に言われて、今号の行動をスタート。皆さんの職場へ取材にお邪魔したときは、どうぞよろしく願います。（O）